川崎市立川中島小学校　支援教育だより

手と手と手

～子どもを支えるみんなの手～

２０２４年度　第７号

「学校に行きたくない」を考える

今年度もあと２ヶ月。各学年のまとめをして、次の年をイメージしているところです。そんな学校生活の中で、なかなか学校に足が向かない場合があります。今回は、「学校に行きたくない」など、登校についての心配を考えていきたいと思います。「学校に行きたくない」と言うと、「不登校」をイメージするかと思います。不登校について文部科学省から、調査結果を踏まえ対応の充実が必要として、次のような通知が出ています。

「不登校は、取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得るものとして捉え、不登校というだけで問題行動であると受け取られないような配慮が必要なことや、支援に当たっては不登校児童生徒やその保護者の意思を十分に尊重しつつ行う必要があること。また、 不登校児童生徒への支援は、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること」　　令和６年 10 月 31 日文部科学省

「学校に行きたくない」となる要因は様々です。直接トラブルなどが原因である場合、学習の困難さがある場合、集団での苦手さがある場合、生活のリズムの乱れや本人にも理解できないもやもや等。それは特別ではなく、誰にでも起こりうるのです。「不登校」には、ある程度の日数等の規定がありますが、たとえ何日かでも「行きたくない」となったら、不安に思われる保護者の方も多いと思います。

要因を探るのは、支援を考えるうえで重要です。理由がわかれば、それに対応することで登校できるようになることも多いからです。しかし、時には「どうして」だけに注目していると次から次へと理由が変わり、本来気づくべき点が見落とされることもあります。集団での苦手さがある場合などは、文科省の通知にあるように、「学校に登校する」が目標ではなく社会的に自立することが目標となる場合もあります。個々によって対応が異なることが難しいところでもあります。

「なぜ、学校に足が向かないのか？」だけでなく、「家での様子はどうかな？」「何を目標にしていくのがいいかな？」など、本人と周囲の人が考えていくことが必要です。少し時間がかかりそうな時は、焦らずじっくり腰を据えて対応する姿勢がよいかもしれません。外部の相談機関も有効な場合があります。それぞれのケースに適した形で、支援を考えていくことが大切だと思います。保護者の方と一緒にその方法を考えていきます。ご心配な時はどうぞご相談ください。

コーディネーターから

旧多目的室の半分を使用していた「ほっとルーム」は、来年度に向け荷物が整理され、一次的に全面使用できる状態になりました。子ども達に好評です。「広くなったね」と驚きの声が聞こえました。子どもがリラックスする場になったり、ゆっくり話を聞く場になったり、活躍しています。

☆２・３月の巡回カウンセラー

２月　７日（金）終日　２５日（火）終日
３月１０日（月）終日　２１日（金）午前

巡回カウンセラー、コーディネーター面談のご希望は…
支援教育コーディネーターまで
０４４－２８８－３１６７